



日耳曼國銀行濶

附銀行規程

全



414  
A 4470



日耳曼國銀行法目錄

一千八百七十五年三月十四日制定

第一章 通規 第一條至第十一條

第二章 國立銀行ノ事 第十二條至第二十二條

第三章 金券發行私立銀行ノ事 第二十三條至第四十二條

第四章 罰則 第四十三條至第五十一條

第五章 補則 第五十二條至第六十六條

六  
一



日耳曼國銀行法

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

大藏省備澳人ハロシホルト 譯講

大藏省十四等出仕宮田去疾 筆記

大藏推中録山田龍司 對照

大藏大録古賀保高 校訂

千八百七十五年三月十四日制定 帝國法律新聞  
第百七十七葉

頒布ス

茲ニ上帝ノ恩惠ヲ受ケタル日耳曼皇帝兼普魯西王  
朕威廉今回聯邦議會及ニ帝國議院評決ノ上日耳曼  
帝國ノ名ヲ以テ左ノ銀行法ヲ頒布スルモノナリ

第一章 通規

第一條

新タニ銀行金券ヲ發行シ或ハ發行許可ノ金券高  
ヲ増加セント欲スルキハ更ニ新法ヲ議定シテ之  
ヲ許可スルニアラサレハ施行スルヲ得ス  
銀行ヲシテ旺盛ナラシメン為メ之ニ委子テ發行  
セシムル政府ノ紙幣ハ此法ニ於テ銀行金券ト同  
一ニ看做スヘシ

第二條

法律上ニ於テ現貨ヲ以テ拂フヘキ場合ニ銀行金  
券ヲ以テセハ領受人之ヲ拒ムノ權アリ又各州政  
府ノ金庫ニ於テハ別ニ銀行金券ヲ領受スヘキ、  
州法ヲ設立セスヘカラス

第三條

銀行金券ハ百、二百、五百、千、マルク、  
一マルク凡ソ我  
上カニ二十五錢弱

ノ四種トシ此外他種ノ金券ヲ製造スヘカラス

第四條

然テ銀行ニ於テハ時日ニ拘ハラズ金券所有主ヨ  
リ其交換ヲ要求スルキハ即チ券面高ノ現貨ヲ以  
テ之ヲ交換シ又之ヲ納付スルキモ本店及ヒ支店  
ニ於テ其券面高ヲ以テ之ヲ領受スヘシ  
損敗金券其損敗ノ形狀該券全面ノ一半ニ及ハサ  
ルモノハ銀行ニ於テ他ノ全キ金券ト之ヲ交換ス  
ヘシ或ハ一半及ヒ強半ニ至ルモ損敗ノ証跡明白  
具状スルキハ又之ヲ交換スヘシ損全損或ハ凶失ノ  
金券ハ之ヲ償却スルヲナシ

第五條

銀行本文店及ヒ銀行ヨリ別ニ設立セシ交換金庫

ニ於テハ一旦交換セシ損敗汚穢ノ金券ヲ以テ再  
ヒ之ヲ發行スヘカラス

第六條

銀行ニ於テ發行金券ノ全種或ハ其一種ヲ引上ケ  
交換スルルキハ聯邦議會ノ命令或ハ許可ノ上ニア  
ラサレハ之ヲ施行スヘカラス  
此命令ハ發行金券損敗汚穢ノ數過多ナルルキ或ハ  
銀行ニ於テ金券發行ノ權利ヲ失ヒシキニ限ルヘ  
シ  
又其許可ハ發行金券ニ贋造アルノ證據ヲ明徴ス  
ルキニ限ルヘシ  
何レノ場合ニ於テモ聯邦議會ヨリ引上ケヘキ金  
券ノ種類。員數。引上ケ期限。引上ケ事務取扱ノ場所。

及ヒ期限後ニ至リ引上ケ遺漏ノ金券交換ノ手續  
並ニ引上ケラルヘキ金券所有主ノ權利ヲ毀損セ  
サル為メ必用ノ方法ヲ定ムヘシ  
前數件ニ就キ聯邦議會ニテ定ムル所ノ規則ハ帝  
國法律新聞紙ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第七條

金券發行銀行ニ許可カラサル事項左ノ如シ  
一 為替券ニ<sup>ア</sup>クセ<sup>ブ</sup>ト<sup>ク</sup>ナス事(日耳曼國為  
替法第二十三條ニ曰ク為替ヲ振込レシ者  
其為替ヲ<sup>ア</sup>承<sup>テ</sup>諾<sup>ス</sup>ルルキハ此為替金額為替法  
ニ於テ其者期限ヲ違ヘス拂渡スヘキノ責  
ニ任ス為替ヲ振込レシ者既ニ<sup>ア</sup>承<sup>テ</sup>諾<sup>ラ</sup>ナシ  
其責ニ任セシ上ハ為替法ニ於テ振込レシ

者ヨリ振出セシ者ニ對シ更ニ為替上ノ權  
利ナキモノトス此<sup>レ</sup>アクセプトトハ為替ヲ  
振出セシ者ト振込レシ者トノ間ニ假令負  
債ナルモ是レニ關係スル<sup>レ</sup>ナク振込レシ  
者ヨリ為替券所有主ヘ其金額ヲ拂渡スヘ  
キノ約束ニシテ為替ヲ振込レシ者一旦承  
諾ヲナセシ上ハ万一之ヲ振出セシ者死ハ  
或ハ破産スルモ其承諾者ニテ必ス此金額  
ヲ拂ハサルヘカラス而シテ為替ヲ承諾ス  
ルノ緣由多少ノ事故アリト雖<sup>レ</sup>之ヲ要ス  
ルニ多クハ振出セシ者ノ保証人トナリ或  
ハ振出セシ者ヨリ曾テ財貨ヲ借受シ或ハ  
振出セシ者ヘ新<sup>ク</sup>ニ財貨ヲ貸付スル等ノ

事項ヨリ生スルモノナリ故ニ若シ信任薄  
キ者ヨリ為替ヲ振出シ信任厚キ者ニ振込  
ニ其承諾ヲ受クル<sup>レ</sup>キハ即チ其信任ヲ假ル  
ト同然ナルヲ以テ必ス承諾人ノ損害ヲ蒙  
ハル<sup>レ</sup>ト多シトス是レ蓋シ此條ニ於テ<sup>レ</sup>ア  
セプト<sup>レ</sup>ヲ許サ<sup>ル</sup>ル所以ナリ

二 物品或ハ時價アル証券ヲ自己或ハ他人ノ  
為メニ期限ヲ以テ賣買シ或ハ賣買ノ保証  
ヲナス事

### 第八條

金券發行銀行ニ於テ自費ヲ以テ帝國新聞紙ニ付  
刊シ報告スヘキ事項左ノ如シ

一 借受物ト所有物トノ現狀是ハ毎月七日十

五日二十三日及七月末此期限ヨリ遅クモ五日以内ニ出スモノトス

二 借受物ト所有物トノ計算比較表及ヒ損益歳計表是ハ毎年末此期限ヨリ遅クモ三ヶ月以内ニ出スモノトス

又毎週報告スヘキ科目左ノ如シ

一 借受ノ部

元金高

準備金高

現在通用ノ金券高

時日ニ拘ハラス償フヘキ負債高

期限ヲ定メ償フヘキ負債高

此他ノ借財高

二 所有ノ部

貨幣ノ有高即チ日耳曼通貨金及ヒ外國貨幣

二ノ湊ルモノニ實ニ以テ千三百九十

國家金庫証券ノ有高

他銀行金券ノ有高

為替券ノ有高

ロシヤバルト貸付高券。金銀其他確實ノ物

品ヲ抵当トシ財貨ヲ貸付

諸証券ノ有高

此他株券ノ有高

年末報告ノ計算比較表中ニ記入スヘキ借受ト所有ノ科目ハ聯邦議會ニ於テ之ヲ定ムルモノトス  
毎週及ヒ年末ノ報告表中ニハ銀行ニ於テ轉賣セ

シ内國為替券ヨリ損失ノ不時ニ起ルモ亦測ラレ  
サルヲ明記スヘシ

第九條

銀行ニ於テ發行セシ金券ノ抵當金及ヒ附録表ニ  
許可セシ金券若シ其額ヲ超過セハ千八百七十六  
年一月一日ヨリ其超過高ニ應シテ五分ノ稅ヲ國  
家金庫ニ納ムヘシ但シ此稅ヲ定ムルニ方テハ銀  
行ノ金庫ニ藏スル日耳曼通貨ハ勿論國家金庫ノ  
証券他ノ日耳曼銀行金券金地金外國貨幣トモ皆  
其抵當金ト見做スヘシ  
又或ル銀行ニ於テ若シ金券發行ノ權利ヲ失フキ  
ハ第四十九條見ヨル其銀行ニ屬スル無稅無抵當ノ金券發  
行額ハ國立銀行ノ同種金券發行額ニ併セ加フヘ

シ

第十條

此稅ヲ定ムル為メ銀行取締ヨリ毎月七日十五日  
廿三日月末ノ四度ニ現在有金高ト發行金券高ト  
ノ檢査表ヲ作り之ヲ政府ノ銀行管理官ニ報告ス  
ヘシ管理官ニ於テハ歲尾ニ至リ該表ヲ以テ憑據  
トシ每表記載スル所ノ金券超過高百別四十八分  
ノ五ヲ其稅額トシ右毎週間ノ超過高ニ課セシ額  
ヲ併セテ一週年ノ稅高トス此稅ハ遅クモ翌年一  
月三十一日迄ニハ必ス帝國金庫ニ納ムヘキモノ  
トス

第十一條

外國銀行金券或ハ外國會社及ヒ一人ニテ發行



セシ無税無記名証券日耳曼帝國及ヒ各州通貨ノ  
金位ノミヲ記シ又ハ外國貨幣ノ金位ヲモ併記セ  
シモノト雖モ内國ノ拂渡ニ之ヲ領受スヘカラス

### 第二章 國立銀行ノ事

#### 第十二條

國立銀行ハ政府ノ監督ト管理トヲ受ケテ成立シ  
法律上乃チ一個人タルノ性質ヲ具有スルモノト  
看做セリ而シテ此銀行タルヤ帝國一般貨幣ノ流  
通ヲ利擗シ或ハ為替ヲナシ或ハ他ノ游金ヲ以テ  
專ラ之ヲ要途ニ活用セシムルモノナリ  
國立銀行ハ其本店ヲ伯靈府ニ設置シ又其支店ヲ  
帝國內各所ニ設立セルノ權ヲ有ス但シ聯邦議會  
ニ於テ適當ノ場所ヲ撰擇シ以テ之ヲ設立セシム

ルヲ得

#### 第十三條

國立銀行ニ於テハ左ノ事業ヲ執行スルヲ得ヘ  
シ

- 一 金地金及ヒ貨幣ヲ賣買スル事
- 二 為替券ノ三ヶ月ヨリ長カラサル期限ニシ  
テ通常之ヲ拂フヘキ義務アルモノ三名或  
ハ少ナクモ二名連署セシモノ或ハ帝國債  
券各州債券郷黨債券ノ三ヶ月間ニ其券面  
高ヲ以テ交換ナルヘキモノヲ賣買シ或ハ  
「シスコラント」ヲナス事「シスコラント」ハ凡  
ソ皆物ヲ賣買シ其債金受授ノ期日ニ至ラ  
スシテ之ヲ受授シ又ハ交換有期ノ為替券

ラ其期日前ニ賣買<sup>ル</sup>キハ此日ヨリ各其  
期日ニ至ル迄ノ日數ニ應シ其價金ニ相當  
セル利子ヲ該金額ヨリ差引スル<sup>コトヲ義ニシ</sup>  
即チ之ヲ<sup>シ</sup>ス<sup>コトヲ</sup>シ<sup>テ</sup>又<sup>コトヲ</sup>ス<sup>ル</sup>コ  
ト<sup>ニ</sup>シ<sup>テ</sup>而シテ右利子ノ昂  
低アルハ一般通貨ノ多少ニ関スルヲ以テ  
ナリ

三

動産ノ抵当ニテ<sup>即チ</sup>ル<sup>コトヲ</sup>貸付<sup>バ</sup>期限三ヶ月ヨ  
リ長カラサル有利子貸付金ヲナス事其抵  
當品ハ即チ左ノ如シ

イ 金地金及ヒ貨幣

ロ 遅クモ一ケ年以内ニ交換ナルヘキ大政

府各州政府各郷黨ノ利子付キ無記名債券

或ハ大受府各州政府ニテ利子ノミ<sup>ノ</sup>保証  
ヲナセル無記名債券或ハ日耳曼鉄道會社  
但シ株金既ニ皆納トナリシ營業中ノ會社  
ヲ云フ株券特別株券特別債券株券發行會  
社起先立社ノキ株券ヲ發行シ爾後營業旺  
盛ニ赴キ大ニ其資本ヲ要スルカ為メ再ヒ  
株主ヲ募リ新株券ヲ増發シ加之更ニ負債  
ヲ為シテ其債券ヲ發行スル<sup>コトヲ</sup>得而シテ  
此新株券ト債券トニハ法律上特別ノ權利  
ヲ與ヘアリテ先ツ債券ノ利子ヲ拂ヒ次ニ  
新株券ノ利益ヲ分配シ其余ヲ以テ旧株券  
ニ及スモノトス故ニ稱シテ特別株券特別  
債券ト云フナリ或ハ日耳曼各州各郷黨及

七各州政府ノ監督ヲ受ケタル土地書入保  
信社証券。并ニ日耳曼土地書入株券發行ノ  
銀行証券。但シ此等ノ抵当ハ渾テ該券時價  
ノ金額四分ノ三ニ過サルヘラス

ハ外國ノ利子付キ無記名特別債券及ヒ各  
國政府ノ保証セル欽道會社債券但シ此等  
ハ時價金額十分ノ五ニ過サルヘラス

ニ其確實ナルヲ嘗テ衆人ニ明識セラレ、  
者ヨリ振出セシ為替券但シ此ハ少ナクモ  
時價ノ五分引キタルヘシ

ホ内國ニ存在セル高價ノ物品但シ此書入  
ハ多クモ其物價ノ三分ニ迄タルベシ

四 第三款ロ号中ニ開列セシ種類ノ債券ヲ賣

買スル事但シ此債券ヲ買収スルニ銀行營  
業金ノ幾分迄ヲ使用シ得ヘキ乎ノ限域ハ  
之ヲ官立銀行主事々務章程中ニ定メ置ク  
ヘシ

五 一私人會社及ヒ官ノ為メインカッソー  
カッソートハ假令ハ甲人乙人ヨリ領収スヘキ  
金額アリ其現金ヲ直ニ領受セズ即チ該証  
票ヲ以テ之ヲ銀行ニ送致シ乙人ヨリシテ  
該金額ヲ領収セシメ然後甲人之ヲ銀行ヨ  
リ領収スルヲ云フヲ幹旋シ又ハ豫メテ  
ツクシクテツクシクトハ或人貨物ヲ購求セ  
ント欲シ或ハ他ヘ金額ヲ拂ハント欲スル  
此需用ニ供スル金銀貨物ヲ豫メ銀行ヘ

付シテ其運用ヲ委托スル事ヲ云フ受ケシ  
キハ此拂渡ヲ執行シ及ヒ「アンウアイスン  
グ」  
「アンウアイスング」一ニ「アツシグサチ  
ヨント」  
云フ是ハ甲人乙人ニ授與スヘキ現金ノ代  
リニ交付スル証書ニシテ即チ該金額ヲ銀  
行ヨリ乙人ニ渡スヘキ旨ヲ記載シタルモ  
ノナリ其状宛モ為換ニ似テ稍異レリ其  
支店或ハ常ニ取引ヲナセシ者ニ送致スル  
事

六 他人ノ需求ニ應ジ豫メ「デツクング」  
第十三款  
「エーベル」  
「エーベル」  
「エーベル」  
「エーベル」  
ノ依頼ヲ受ルキハ其現物ヲ領受セシ上之

ヲ賣却スル「エーベル」云フ「エーベル」  
種々ノ  
証券及ヒ金銀貨物ヲ買賣スル事

七 有利子無利子ノ預金及ヒ「エーベル」  
「エーベル」  
賣ノ者銀行ノ手ヲ假リ其商業上ノ取引ヲ  
便ニスル為メ貨幣及ヒ地金銀ヲ以テ之ヲ  
銀行ニ預ケ而シテ相對ノ取引ヲ為スニハ實  
際現金ヲ用テセズ唯其預金帳簿上ニ就テ  
請拂ヲ為スノ義ナリ此預金ハ銀行ニ於テ  
使用スル「エーベル」得ス又何時ニテモ之ヲ取戻  
ス「エーベル」得ル故ニ高買ハ安シテ其財貨ヲ  
預ケルモ「エーベル」ナリノ預金ヲナス事但シ有利  
子預金ハ銀行ノ株金及ヒ準備金ノ高ニ超  
過スヘカラス

八 財貨ヲ預リ及ヒ之カ支配ヲナス事

第十四條

國立銀行ニ於テハ金地金ノ交換ヲ乞フ者アレハ直ニ該銀行ノ金券ト之ヲ交換スヘキ義務アリトス但シ地金ノ品位ヲ鑑定スル為メ其術ニ練熟セル者ヲシテ之ヲ分拵<sup>新</sup>驗査セシメ而シテ此入費ラ地金所有主ヨリ拂ハシムルノ權アリ

第十五條

國立銀行ニ於テハ該銀行ノ「<sup>二</sup>スコント<sup>一</sup>」<sup>第十三條ノ第</sup>三<sup>二</sup>款<sup>一</sup>及ヒ「<sup>三</sup>ロソバルト<sup>一</sup>」<sup>第十三條ノ第</sup>三<sup>二</sup>款<sup>一</sup>ノ利子相場書ヲ其時々公告スヘシ又每週報告スル所ノ通覽表ハ國立銀行主事局及ヒ之ニ直隸スル支店ノ帳簿ヲ基本トシテ之ヲ編製スヘシ

第十六條

國立銀行ハ其營業ノ形況ニ隨ヒ之カ資本ヲ要スル<sup>ル</sup>片ハ乃チ金券ヲ發行スルノ權アリ此金券製造發行引揚廢毀ボノ「<sup>一</sup>」ハ渾テ帝國々債局ニ於テ之ヲ管理ス而シテ此事務ヲ擔任スル吏員ハ皇帝ヨリ直ニ之ヲ命ス

第十七條

國立銀行ハ何時ニテモ其通用金券交換ニ臨テ支障ナキラ要スル為メ少ナクモ其全額ノ三分一ハ日耳曼通貨國家金庫金券金地金外國貨幣其三分<sup>二</sup>ハ「<sup>一</sup>」<sup>第十三條ノ第</sup>三<sup>二</sup>款<sup>一</sup>ニ詳ナリ為替券ノ長クモ三ヶ月期限ニシテ通常之ヲ拂フヘキ義務アルモノ三名或ハ少ナクモ二名連署セシモノヲ以テ抵当



銀行ノ吏員或ハ競賣擔当人官ヨリ命スヲ以テ其  
抵当品ヲ公賣スヘシ然シテ其抵当品相場會社又  
ハ市場ノ時價フルモノハ別ニ之ヲ公ニセス銀行  
ノ吏員或ハ商業世話人官ヨリ命ス或ハ右等ノ人  
ヲ欠クキハ即チ競賣擔当人ニテ之ヲ賣却シ其價  
金高ヲ以テ直ニ該母金。利子。手数料ニ充ルルノ權  
アリ而シテ此權利ハ右負債者ニ係ル他ノ債主ニ  
對シ又ハ身代限リノキニ於ケルモ決シテ之ニ関  
係アルコトナシ

第七一條

國立銀行ハ本文店トモ帝國內ニ於テ其政府ニ納  
ムヘキ收入稅。高工稅ヲ免除ス

第七二條

國立銀行ハ無入費ニテ帝國政府ノ為メ其收稅金  
ヲ領受シ又政府ノ金ヲ預リ而シテ其原額ニ滿ル  
迄ハ之ヲ支出スヘキ義務アリトス  
各州政府ノ為メ同一ノ事務ヲ負擔スルハ又其權  
内ニ在リ

第七三條

國立銀行ノ株金ヲ一億二千萬マルクニ定  
メ之ヲ四万株ニ分テ其記名株券ヲ製造ス其一ハ  
即チ三千マルク五我百我ニ當ルモノナリ株主ハ  
國立銀行ノ義務ニ對シ各自其責ニ任スルモノニ  
非ス

第七四條

年末ニ至リ國立銀行ノ純益金ヲ配賦スルコト左ノ

如シ

- 一 株主定式ノ配賦金ハ即チ株金高ノ四分五厘トス
  - 二 配賦金餘贏アラハ其殘額ノ二割ヲ以テ準備金ニ加フヘシ但シ準備金ノ高株金高ノ四分ノ一ニ滿タサルキニ限ルヘシ
  - 三 準備金ニ加フ可キ二割ヲ差引キ殘リ金額ノ一半ハ株主ニ配賦シ又一半ハ銀行ニ藏置スヘシ若シ前後ノ配賦金合テ其株金高ノ八分ニ滿タハ右殘額四分ノ一ヲ株主ニ與ハ四分ノ三ヲ銀行ノ有トス
- 純益金ノ高若シ株金高ノ四分五厘ニ滿タサルキハ乃チ準備金ヨリ其不足ヲ補フヘシ

國立銀行ノ株券ヲ買却スルニ方リ時價ノ差ニ由テ生スル益金アラハ之ヲ準備金ニ加フヘシ

純益配賦金ノ期滿得免ハ配賦切手ヲ渡セシ日ヨリ四ヶ年トス若シ此期限内ニ領受セサルキハ其金額ヲ以テ銀行ノ有トナス

第廿五條

國立銀行ノ監督ハ帝國政府ヨリ銀行監護局ヲ置キ四名ノ吏員ヲシテ之ヲ擔任セシメ而シテ宰相之ヲ長タリ此吏員一名ハ皇帝直ニ之ヲ命シ三名ハ聯邦議會ヨリ命スヘシ

監護官ノ集會ヲ一期一回ト定ム而シテ集會ノ時ハ銀行ヨリ其營業ノ方法景況進動及ヒ該店ニ關スル事件ノ概目ヲ立テ之ヲ申告スヘシ



第廿六條

國立銀行ノ管理ハ帝國受府ヨリ宰相及ヒ之ニ属  
スル銀行主事局ヲシテ之ヲ擔任セシメ若シ宰相  
事故アルキハ皇帝之<sup>カ</sup>代理人ヲ命スルモナリ  
宰相ハ此法ノ既成規<sup>第廿四條トニ</sup>循テ銀行一切  
ノ事務ヲ管理セリ因テ銀行主事局銀行支店ノ事  
務章程銀行吏員ノ處務順序ヲ制定シ又止ラ得  
サル場合ニ於テハ其成規ヲ改正スルノ權ヲ有ス

第廿七條

銀行主事局ニハ長官一名并ニ必要ノ属吏数名ヲ  
置キ内ニ在テハ銀行ノ事務ヲ施行シ外ニ對シテ  
ハ銀行ノ代理ヲナサシメ而シテ其事務ヲ議決ス  
ル<sup>ト</sup>ハ乃チ投票ノ多数ニ從フヘシ然レ<sup>ル</sup>氏毎ニ宰

相制定スル所ノ規則ト其命令トニ循テ之ヲ施行  
セサルヘカラス

國立銀行主事局ノ長官及ヒ其属吏ハ聯邦議會ヨ  
リ直ニ皇帝ニ上奏シ皇帝ヨリ其終身ノ在職ヲ命  
ス

第廿八條

國立銀行吏員ノ權理義務ハ固ヨリ帝國政府ノ官  
吏ト異<sup>ナ</sup>ル<sup>ト</sup>ナシ但シ俸給安息金其他勤務上ニ  
就キタル収入物及ヒ其遺族ノ安息金救助金ハ銀  
行ヨリ之ヲ支給スヘシ

銀行主事局吏員ノ俸給及ヒ安息金ノ額ハ毎年帝  
國歳入出豫算表ヲ以テ之ヲ定メ他ノ吏員ノ分ハ  
毎年宰相ヨリ上奏スル所ニ從ヒ皇帝聯邦議會ト

協議ノ上ニ非サレハ之ヲ定ムヘカラス

國立銀行ノ吏員ハ總テ株券ヲ所有スルヲ得ス

第廿九條

國立銀行ノ會計ハ帝國政府検査院ノ検査ヲ受ケ

ヘシ

毎年上達スヘキ會計帳ノ組立方ハ宰相之ヲ定ム

而シテ其定メシ所ノ規則ハ之ヲ検査院ニ出スヘ

シ

第三十條

株主。國立銀行事務施行ノトニ干預スルノ權利ハ

總株主中ヨリ選舉セシ中心委員此權利ハ次ノ外

別ニ株主總會ノ決議ニ因テ之ヲ得ルモノトス

第三十一條

中心委員ハ株主ノ為メ國立銀行ノ事務ヲ施行ス

ル者ニ對シ定式ノ代理ヲナスモノナリ即チ其入

員ヲ十五名ト定メ外ニ十五名ノ預備代理人ヲ置

ク而シテ是ボノ人員ハ株主總會ニ於テ少ナクモ

記名株券三個ヲ有シ常ニ帝國內ニ居住スル者ヲ

撰ヒ此内九名ノ委員ト九名ノ代理人トハ必ス伯

靈ニ居住スル者ニ限レリ但シ委員三分ノ一ハ每

年其職ヲ退キ他日復選舉セラル所ヲ得ヘシ

中心委員ハ國立銀行主事局長ヲ以テ其長トシ少

ナクモ一月一回ノ會議ヲナスヘシ又長ヨリ臨時

會ヲ開クトアリ此時少ナクモ七名ノ委員其坐ニ

列セハ議定ノ權アルモノトス而シテ代理人代理

ノ場合及ヒ其順序ヲ豫メ事務章程中ニ定メ置ク

第三十二條

国立銀行ニ於テハ「スコント」第十三條ニ詳ナリ第為替  
「ロソバル」第八條ニ詳ナリ貸付、發行金券、現貨幣預リ  
 金ノ高、金地金、為替券、諸証券ノ賣買高及ヒ支店ニ  
 配付セシ金高又定式或ハ臨時ニ檢査セシ金庫形  
 況オ毎週ノ報告書并ニ現在行ノ所ノ事務ト将来  
 要スヘキ方法トニ就キ国立銀行主事局ノ意見書  
 ヲ付シ併セテ毎月中心委員ニ示スベシ  
 格別ニ委員ノ議ニ付スヘキ事件ハ左ノ如シ  
 一 国立銀行主事局ノ意見書ヲ付シ宰相ノ  
 檢閲ヲ經テ株主總會ノ時ニ示シタル談  
 局編製ノ年末結算表又ヒ利益計算表ノ事

口 吏員ノ俸給及ヒ安息金定額改正ノ事第

ハ 国立銀行主事局長官外ノ欲員ヲ捕フ事  
 但シ此事ハ聯邦議會ノ決ヲ仰ク前ニ於テ

ニ 「ロソバル」第八條ニ詳ナリ第ニ 貸付ニ用フヘ  
 キ金額制限ノ事但シ銀行ノ為メニ証券ヲ  
 買収スル金高ハ中心委員同意ノ上ニアラ

サレハ之カ制限ヲ立ツヘカラス  
 ホ 「スコソ」第十三條ニ詳ナリ第「ロソバル」第八  
 條ニ詳ナリ第ニ 利子ノ高及ヒ貸付方法、貸付期  
 限、改正ノ事

一 此他日耳曼銀行ヲ見ヨ九條トノ條約及ヒ

其事務ニ関スル方法ノ事

一般ノ事務章程及ヒ處務順序第二十六條ハ発行  
ノ後直ニ中心委員ニ示スヘシ

第三十三條

委員ハ然テ無給トス

凡ソ委員タル者銀行ノ密事ヲ漏泄シ第三十九條

或ハ職務上知得セシ事ヲ以テ私カニ奸計ヲ施シ

其他然テ銀行ノ不利ヲ為シ一般ノ信任ヲ失フキ

ハ株主總會ノ決議ニ於テ速ニ退職セシマルト

ヲ得ヘシ

又委員中破産セシ者或ハ半年間集會ニ出サル者

或ハ選舉法第三十一條ノ一則ヲ失フ者亦速ニ退

職セシマルトヲ得ヘシ

第三十四條

國立銀行事務施行ニ就テ定式ノ監察ハ中心委員

中ヨリ選舉セラレシ特別委員三名ニテ一年間之

ニ任シ而シテ又其代理人ヲ置クヘシ此代理人代

理ノ場合及ヒ處務順序ハ預メ之ヲ其事務章程中

ニ定メ置クヘシ

特別委員ハ國立銀行主事局集會ノ時ニ於テ特別

ニ其議事ニ參シ發言ノ權ヲ有ス

特別委員ノ權利及ヒ其義務ハ通例事務取扱時間

ニ主事局ノ立合ヲ以テ銀行事務ノ進動ヲ監察シ

諸帳簿諸証券ヲ點檢シ又定式及ヒ臨時ノ金庫檢

査ニ其立合ヲナスニ在リ而シテ毎月中心委員集

會ノ時ニ於テ其勤務上ノ報告書ヲ出スヘシ

此法第三十三條第二項ノ事故アルニ於テハ株主ノ召集會ヲ待タス中心委員直ニ特別委員ノ勤務ヲ停止スルヲ得ヘシ

### 第三十五條

帝國政府及ヒ日耳曼各州受府ノ理財上ニ関スル銀行ノ事務ハ必ス此法及ヒ銀行規程第四十條ニ準據スヘシ若シ一般ニ適施スル銀行營業法ノ外新ニ起ル所ノ事件ハ銀行ヨリ豫メ之ヲ特別委員ニ告ケ特別委員中一員若シ之ヲ中心委員ノ協議ニ付センコトヲ要スルモノアレハ即チ之ニ告クヘシ而シテ其之ヲ施行スルニハ必ス中心委員七名以上集會ノ上投票ノ多數ヲ以テ決定スルノ後ニ於テスヘシ

### 第三十六條

國立銀行本店ノ外聯邦議會ニ於テ繁盛ナル都府ニハ該銀行ノ大支店ヲ設立シテ少ナクモ之ニ二名ノ主事ヲ置キ而シテ皇帝ノ命ヲ受ケタル銀行事務委員ヲシテ其監察ヲナサシムヘシ  
總テ國立銀行支店設立ノ地方ニ於テ株主多數ナルキハ其内ヨリ區委員ヲ選舉スヘシ此選舉法ハ本店銀行主事ト中心委員トニテ編製セシ大支店設立地及ヒ其近傍ニ居住スル株主ノ名前目錄ニ據リ宰相之ヲ選フモノナリ而シテ區委員月次集會ノキハ大支店ヨリ事務ノ通覽表及ヒ本店一般ノ指令書ヲ出スヘシ又區委員ノ開申及ヒ意見書ノ大支店主事ニ於テ決シ難キキハ該主事添書

シテ之ヲ宰相ニ進達スヘシ  
大支店事務進動ニ就テ特別ノ監察ハ此法第三十  
四條ニ遵ヒ二三ノ立合人ヲ以テ之ニ任ス但シ之  
カ為メ日々ノ事務上ニ障碍ヲ為ス可ラス此立會  
人ハ區委員中ヨリ選舉シ若シ區委員ナキハ此  
余第二項ニ循ヒ宰相之ヲ株主中ヨリ選舉ス

### 第三十七條

大支店ノ外國立銀行主事局ニ直隸スル支店ハ宰  
相ノ命ヲ以テ之ヲ設立シ他ノ支店ニ直隸スルモ  
ハ國立銀行主事局ノ命ヲ以テ設立スルヲ得  
第三十八條  
國立銀行ハ法律上ニ於テ特別ノ委任狀ヲ要スル  
場合其<sup>他</sup>地如何ナル時ニ於テモ國立銀行主事局或

ハ國立銀行大支店ノ名ヲ署シ該銀行ノ為メ處分  
セシ事件ニ對シテハ必ス其責ニ任スヘシ但シ此  
署名ハ主事局吏員二名或ハ大支店主事二名或ハ  
其代理人ニ限ルヘシ  
國立銀行ノ為メニスル大支店署名ノ方法及ヒ其  
式樣ハ宰相豫メ之ヲ定メ以テ一般ニ公告スヘシ  
國立銀行大支店其他支店ノ事業ニ関スル一切ノ  
告訴ハ其所<sup>在</sup>地方ノ裁判所ニ出スヲ得ヘシ

### 第三十九條

總テ銀行ノ事務ニ関スル吏員。委員。立合人。ボハ銀  
行一切ノ事務并ニ一箇人ニ係ル事務及ヒ其貸付  
金ノ高決シテ他ニ漏泄スヘカラス是<sup>ハ</sup>故ニ特別  
委員及ヒ其代理人立合人ハ渾テ其職ヲ奉スル前

誓詞ニ代フルニ必ス握手シテ之ヲ漏泄セサルノ  
旨ヲ誓フヘシ

第四十條

此法第十二條ヨリ第三十九條ニ至ルマテハ規則  
ニ遵ヒ皇帝。聯邦議會ト協議シ以テ國立銀行規程  
ヲ制定ス

銀行規程中<sup>特</sup>ニ制定スヘキ事項在ノ如シ

- 一 國立銀行株券并ニ之ニ屬スル益金配賦切  
手及ヒ<sup>1</sup>タロシノ製式<sup>1</sup>タロシトハ益金配賦  
切手既ニ盡キテ更ニ之ヲ求ムルハ銀行ニ  
出シテ新切手ト交換スル所ノ証票ナリ
- 二 株券讓渡。書<sup>1</sup>及ヒ書入質ノ規則
- 三 亡失。損敗ノ株券。益金配賦切手<sup>1</sup>タロシノ<sup>1</sup>ア

一モルサチヨシヲ為スノ事<sup>1</sup>ヨシトモルハ法律  
上ニ於テ其通用ヲ停止スルヲ云フ其詳  
ハ於テ西農業勸導法ニ就テミルヘシ

四 國立銀行一週年損益比較表ノ編式

五 配賦益金領収ノ期限及ヒ其順序

六 株主總會ノ召集規則株主投票ノ權及ヒ

執行ノ方法但シ株券一個以上ヲ有スル者  
ニアラサレハ投票ノ權ヲ許サス又一名ニ  
シテ百個以上投票ノ權ヲ許可スル制ヲ設  
クヘカラス

七 中心委員。特別委員。區委員。大支店立合人ヲ  
選舉スルノ方法

八 國立銀行報告順序及ヒ之ヲ揭示スヘキ新  
聞紙ノ事

九 國立銀行廢止

第四十一條 見十一ノ片解社結算

チヨシハ銀行ノ創設セシキ法律ヲ以テ隨  
ビ或ハ社債ノ許決ニ出テ或ハ法律ヲ以テ  
ト解社債ノ領収トスヘキモノノ方法

十 帝國ノ法律ヲ以テ株金ヲ増加スル片株主

及ヒ其代理人其議ニ參預スルノ方法

十一 他人ノ為メ証券賣買ノ斡旋ヲ為ス片其抵

當ラ出サシムルノ方法(但シ証券賣却ノ斡旋  
以テセス唯其口託ニ頼テ現品ヲ授受シルカ  
故ニ其購求ヲ得テ現品ヲ授受シルカ  
當ハ必ス抵要ス)

第四十一條

帝國政府ニ於テハ千八百九十一年一月一日并ニ  
尔後十年毎ニ其一年前豫メ銀行ニ告示(皇帝聯邦  
議會ト協議ノ上乃チ之ヲ宰相ニ命ス宰相又之ヲ

國立銀行主事局ニ示シ而シテ主事局ヨリ公告ス  
ルヲ例トススルキハ右ニ款ノ如ク之ヲ所置スル  
ノ權アリトス

イ 此法ニ遵テ設立セシ國立銀行ヲ廢シ其  
不動産ハ帳簿記載ノ金高ヲ以テ買上ル

事  
ロ 國立銀行ノ株券ハ渾テ其券面記載高ヲ  
以テ買上ル事

此ニ款ノ場合ニ於テハ準備金ノ差引結算ヲナシ  
テ既ニ其損失ヲ償ヒ剩餘ハ一半ヲ以テ株主ニ  
與ヘ一半ヲ以テ帝國政府ノ有トス  
若シ右期限ヲ延期セント欲セハ必ス帝國議院ノ  
承諾ヲ受クヘシ



第三章 金券發行私立銀行ノ事

第四十二條

此法布告ノ日ヨリ金券發行ノ權ヲ有スル私立銀行ハ其金券通用ノ許可ヲ得シ州域外ニ於テ支店ヲ置キ或ハ用達人ヲシテ其事務ヲ取扱ハシメ或ハ他ノ銀行ニ結合スルボノ事ヲ許サス

第四十三條

此法布告ノ日ヨリ金券發行ノ權ヲ有セル私立銀行ノ金券ハ其通用ノ許可ヲ得シ州域外ニ於テ使用スルテラ許サス但シ此金券ヲ以テ他ノ銀行金券或ハ紙幣或ハ貨幣ト交換スルハ此限ニアラス

第四十四條

右四十三條ノ規則ハ千八百七十六年一月一日迄

左ニ開列セシ條款ヲ履行スル銀行ニ敢テ關係アルトナシ

一 銀行ハ其營業金ヲ以テ此法第十三條ノ第

一款ヨリ第四款ニ至ル迄ノ事ニ使用シ就

中第四款ノ事ニ至リテハ營業金及ヒ準備

金ノ半額マテ使用スル事

貸付ノ法ハ千八百七十七年一月一日迄第

十三條第三款ノ規則遵フヘキ事

第十三條第三款ノ規則及ヒ貸付金利息

ノ相場ヲ時々公告スル事

二 純益金營業金高ノ四分五厘ニ過クルギハ

少ナクモ純益金高ノ二割ヲ準備金ニ加フ

ヘキ事但シ是ハ準備金ノ高營業金高ノ四

分ノ一ニ滿タサレ時ニ限レリ

三 金券通用總高ノ少ナクモ三分ノ一ハ時價

アル日耳曼通貨國家金庫証券或ハ金地金

或ハ外國貨幣其三分ノ二ハシスコソント

三條ノ第一ヲナセシ為替券此為替券ハ三

ケ月ヨリ長カラサル期限ニシテ通常之ヲ

拂フヘキ義務アル者三名或ハ少ナクモ二

名連署セシモノニ限レリヲ抵当トシテ備

ヘ置ヘキ事

四 銀行ハ聯邦議會ノ承諾ヲ經伯靈府或ハ佛

郎渡地名内適宜ノ場所ニ於テ發行金券交換

ヲ乞フ者ニ對シ日耳曼通貨ト交換スルヲ

以テ其義務トスヘキ事但シ此交換ハ遅ク

モ金券ヲ持来リシ日ノ翌日迄ヲ限レリ

五 日耳曼帝國一般金券發行ヲ許可セシ銀行

其金券交換ノ期限ヲ愆ラサル以内ハ本店

及ヒ人口八万以上ノ市街ニ在ル支店ニ於

テ該金券ヲ券面記載高ニテ拂渡ス片之ヲ

領收スヘキ事

銀行ハ國立銀行金券ヲ除クノ外總テ領收

スル所ノ他銀行金券之ヲ其交換ニ使用ス

ト雖モ他ノ拂渡シニハ該金券發行銀行及

ヒ其本店所在地方ノ外使用ス可カラサル

事

六 銀行ハ該州政府ヨリ他ノ銀行ニ金券發行

ヲ許可シ又該州政府金庫ニ於テ該銀行ノ

金券ヲ現金同様ニ領収スヘキ約ヲ破ルキ  
之ヲ拒ムノ權利ヲ抛却スル事

七 銀行ハ該州政府或ハ聯邦議會ヨリ此法第  
四十二條ニ定メシ所ノ期限ヲ以テ豫メ金  
券發行ノ停止ヲ告示スルニ至<sup>テ</sup>ハ決テ其  
償金ヲ請求スルヲ得サル事

聯邦議會ニテ其金券ノ發行ヲ停止スルハ全ク金  
券發行銀行ノ事務ヲ改定スル為メ歟或ハ銀行ニ  
於テ此法ニ背戾セシキニ限レリ但シ是オノ事件  
ハ總テ聯邦議會ニ於テ決定スヘシ  
銀行ニ於テ右ノ第一款ヨリ第七款ニ至ル迄ノ規  
則ヲ履行セハ乃チ支店或ハ<sup>銀行</sup>用達所ヲシテ其事務  
ヲ此法第四十二條ニ定メシ州域外ニ行フ<sup>ル</sup>ヲ得

ヘシ但シ是ハ該地ノ州政府ヨリ通知ノ上聯邦議  
會ニ於テ許可スルキモノトス

銀行規程或ハ特許ヲ以テ發行セシ金券ノ高千八  
百七十四年一月一日迄ニ拂済ノ株金高ニ超過セ  
サル確証ヲ千八百七<sup>十</sup>六年一月一日迄ニ表明ス  
ル銀行ハ右第二款ノ定規ニ関セス帝國一般ニ其  
發行金券ノ通用ヲ許可シ且ツ支店或ハ<sup>銀行</sup>用達所ヲ  
シテ帝國一般該銀行ノ事務ヲ執行スル<sup>ル</sup>ヲ得セ  
シムヘシ

若シ該銀行ニ於テ從來執行セシクレジットノ与  
方<sup>即チ</sup>右第一款ニ定規ニ戾ル<sup>ル</sup>有テ停止セラ  
レ<sup>ル</sup>キ該銀行ヨリ之ニ<sup>ニ</sup>戾ラサル可カラサル所以  
ノ理由ヲ以テ聯邦議會ニ顯告スルキハ聯邦議會

マニ  
如ク其事務ヲ執行スルコトヲ得セシムヘシ而シテ  
又之カ為メ緊要ナル規則ヲ制定スルコトヲ得

第四十五條

私立銀行ニ於テ特自便利ノ為メ此法第四十四條  
ノ如ク其許可ヲ得シコトヲ欲セハ必ス帝國宰相ニ  
左ノ事項ヲ具状スヘシ

- 一 此法第四十四條ノ定規ニ循テ銀行規程ヲ  
制定セシ事

- 二 必要ナル金券交換所ヲ設置セシ事

帝國宰相右ノ具状ヲ得ハ乃チ帝國法律新聞紙  
ヲ以テ左ノ事ヲ報告ス

- 一 該銀行ハ此法第四十五條ト第四十三條或

ハ第四十三條ノミニ關係セサル事

二 該銀行ノ金券交換所地名ノ事

第四十六條

私立銀行ニ於テ金券発行ノ權利ヲ得シ期限中ト  
雖モ政府又ハ其部局ヨリ或ル期限ヲ以テ之ヲ停  
止スルコトヲ得但シ此法ニ循テ第一次ノ期限第四  
十條ニ詳ナリ以テ特令スヘシ尤モ銀行ニ於テ千八百  
七十四年一月一日迄拂済ノ株金高ニ應シテ發行  
金券ノ高ヲ減シ而シテ此法第四十四條第一款及  
ニ第三款ヨリ第七款ニ至ルマテノ定規ヲ遵守セ  
ハ此限外タルヘシ

若シ銀行規程其營業期限及ニ金券發行ノ權利普  
魯西銀行金券發行特准永続ノ期限ニ關係スルヲ

レハ其効ナキモノトス

第四十七條

總テ金券発行私立銀行ニ於テ其權利ヲ有スル以  
内銀行規程或ハ特別ノ允許狀ヲ改正(是ハ株金准  
備金事務章程或ハ發行金券抵当金券発行權利規  
限ノ事オナリ)スレニハ必ス聯邦議會ノ承諾ヲ經  
サレハ之ヲ行フヘカラス

若シ各州法及ヒ准許ヲ以テ此法ノ外為替券買入  
抵当貸付証券買賣及ヒ預ケ金オ其規程定メアル  
モノハ聯邦議會ノ承諾ヲ要セス

銀行ニ於テ他ノ法律上ニ對シタク可カサルトク  
履行セハ該州政府ヨリ之ヲ其聯邦議會ハ通知シ  
テ承諾ヲ受クヘキモノトス但シ聯邦議會ハ銀行

ニ於テ此法第四十四條ノ規則ヲ履行セサレハ其  
承諾ヲナス可カラス

巴華厘亞政府ハ該州ニ在ル金券発行銀行ニ七千  
万<sup>九</sup>マ<sup>九</sup>ル<sup>七</sup>ク<sup>五</sup>我<sup>十</sup>千<sup>七</sup>百<sup>五</sup>日<sup>七</sup>迄金券ヲ增加スルトテ許シ

且ツ其權利ヲ他ノ銀行ニ讓与スルトテ許スノ推  
アリ但シ該銀行ニ於テ此法第四十四條ノ規則ヲ  
履行スルニ限レリトス

第四十八條

帝國宰相ハ渾テ金券発行私立銀行ノ帳簿及ヒ事  
務所并ニ金庫現狀ノ檢査ヲ要スルトアレハ何時  
ニテモ檢査委員ヲシテ之ヲ行ハシメ而シテ此法  
ト銀行規程トニ定メシ規則及ヒ金券発行ノ期限  
或ハ第四十二條第四十三條或ハ第四十三條ノ

ヲ履行スルヤ否ヤヲ監視セシム又銀行毎週間又  
毎周年ノ報告書詳第十條ニ并ニ賦税ノ為メニ呈  
セシ通覽表詳第十條ニ確實ナルヤ否ヲモ亦調査  
セシムルノ推アリ但シ各州政府監督ノ推ハ之カ  
為メ敢テ撞着スルトナシ

第四十九條

私立銀行金券発行ノ權利ヲ失フトハ則チ左ノ如  
シ

- 一 金券発行ノ期限終リシキ
- 二 金券発行ノ權利ヲ繳還セシキ
- 三 破産セシキ
- 四 審判ニ由テ金券発行ノ權利ヲ失ヒシキ
- 五 諛州政府ヨリ銀行規程或ハ特別免許狀ニ

准拠シテ金券発行ヲ停止セシキ

第五十條

左ノ場合ニ因テ金券発行ノ權利ヲ剝奪スルキハ  
帝國宰相或ハ銀行設置ノ各州政府ヨリ上告ノ上  
裁判所ニ於テ之ヲ申渡スモノトス

- 一 銀行規程特別免許狀或ハ此法ニ定メシ發  
行金券高ノ抵当規則ヲ踐履セス或ハ銀行  
規程特別免許狀或ハ此法ニ定メシ金券發  
行高ヲ超過セシキ
- 二 此法第四十五條ノ如ク宰相ヨリ未タ其報  
告ヲ出ササル前第四十二條ノ規則ヲ犯シ  
其州域外ニ於テ事務ヲ行ハシキ或ハ第四  
十三條ニ定メシ州域外ニ其金券ヲ通用シ

或ハ之ヲ通用セシメタルルル

三 金券交換ヲ乞フ者ニ對シ左ノ時限迄ニ交

換セサルルル

イ 本店ニ於テハ金券ヲ持来リシ當日

ロ 交換所ニ於テハ第四十條第四金券ヲ

持来リシ日ノ翌日迄

ハ 此外銀行規程ニ定メシ交換所ニ於テハ

金券ヲ持来リシ日ヲ除キ三日ヲ過ル迄

四 損失ノ為メ株金五分ノ一ヲ減セシルル

此上告ハ定式ノ手續ヲ以テ裁判所ニ於テ之ヲ取

扱フヘシ

此件ニ係ル訴訟ハ帝國及ヒ各州ノ法律ニ於テ即

チ商法上ノ訴訟ト看做スヘシ

金券發行ノ權利剝奪審判ノ并同時ニ又其發行金  
券必ス交換スヘキノ義務アルルヲ申渡スヘシ

第五十一條

審判ノ処分ハ法カヲ得シ日後控訴期限ヲ過シヨリ

原告上告ノ上裁判所ニ於テ之ヲ実行シ而シテ銀

行事務長ヨリ又其金券ヲ交換スヘキノ報告期限

ヲ定ムヘシ

審判ノ上銀行破産ニ至ラサル以内ハ裁判所ヨリ

一名ノ吏員ヲ置キ以テ金券交換ノ事務ヲ監督セ

シハ若シ銀行ニ於テ此義務ヲ十分ニ尽サレルルル

ハ其監督人ヨリ該銀行解社結算第四十條ノ処分

ヲ裁判所ニ上告スヘシ

交換所ノ金券ハ帝國宰相ノ指令ニ隨ヒ該銀行ヨ

リ其所在地方ノ金庫へ納付スヘシ

第五十二條

審判<sup>第五十條</sup>ニ於テ法カヲ得シ日ヨリ六箇月ヲ限リ該銀行ニ於テ交換未清ノ金券高ニ均シキ現貨ヲ以テ帝國宰相ノ指令セル金庫ニ假納スヘシ而シテ此現貨ハ金庫ニ於テ銀行ヨリ漸次納付スル金券高ニ應シテ交付シ其残高ハ聯邦議會ニテ定メシ最後ノ交換期限ヲ過シ後ニ及テ之ヲ交付スヘシ

第五十三條

金庫へ納付セル金券<sup>第五十條</sup>ニ如シ<sup>第五</sup>ハ該金庫監督及ヒ金券交換監督人ノ立合ヲ以テ之ヲ廢毀スヘシ但シ此時ハ必ス裁判所或ハ録事ノ証各ヲ要ス

又該銀行事務長ハ兩名ノ委員ヲシテ之ニ立合ハシムルノ權アリ但シ此期日ハ金庫長官ヨリ毎ニ八日前ニ在テ之ヲ報告スヘシ尤モ是ヲ一回ニ行フモ數回ノ行フモ亦其便宜ニ任ス

第五十四條

金券發行銀行ニテサレモ此法布告ノ既ニ金券或ハ無利子無記名証券發行ノ權利ヲ有セン社會ニ於テハ其權利ヲ行フノ間金券發行ノ發行期限及ヒ其抵當ニ關スル事オハ即チ此法ノ第二條ヨリ第六條ニ至ル迄又第四十三條及ヒ第四十七條ノ第一款ニ定メシ規則ニ循フヘシ

第四章 罰則



第五十五条

何人ヲ問ハス銀行金券或ハ無利子無記名証券ヲ以テ恣ニ之ヲ發行セシモノアテハ其發行高十倍ノ罰金ヲ課スヘシ但シ少ナクモ五千九我レ千二百五ヲ下ルヘカラス

第五十六条

何人ヲ問ハス此法第四十三条ニ背キ内國銀行金券及ヒ内國會社ノ証券其他金券ノ類ヲ以テ之ヲ通用許可ノ州域外ニ使用スルモノアテハ百五十九我レ千二レノ罰金ヲ課スヘシ

第五十七条

何人ヲ問ハス此法第十二条ニ背キ外國銀行金券

或ハ外國會社及ヒ一箇人ニテ發行セシ無利子無記名証券ニ日耳曼帝國及ヒ各州通貨ノ金位ノラ記シ或ハ外國貨幣ノ金位ヲモ併記シタルモノヲ以テ之ヲ帝國內ニ使用スル者ハ五十九我レ千二レノ罰金ヲ課スヘシ

此使用ヲ以テ本業トスル者アテハ罰金ノ外一年ヨリ多カラサル禁獄ニ処シ之ヲ営ント企シモノモ亦相当ノ罰ニ処スヘシ

第五十八条

何人ヲ問ハス此法第四十二条ニ背キ或レ銀行ノ為メニ其支店ノ支配人或ハ用達人トナリテ銀行ノ事務ヲ執行シ或ハ他ノ銀行ノ社員モトモノア

ラハ五千<sup>ト</sup>マ<sup>ル</sup>ヨリ多カラサル罰金ヲ課スヘシ  
銀行支配人此法第七條ニ背キ或ハ第四十二條<sup>即チ</sup>左  
ニ開列セシ<sup>レ</sup>一<sup>レ</sup>支ヲ犯ス者ハ又同斷ノ罰ニ処スヘ

イ 支店或ハ用達所ヲ設クル事

ロ 自己管轄ノ銀行ヲ他銀行ニ結合セシム

ル 事

第五十九條

銀行支配人ヲ罰スルハ則チ左ノ如シ

- 一 此法第八條ニ定メシ報告各ニ故ラニ銀行ノ景況ヲ詐欺シ或ハ隱蔽スルキハ三箇月以内ノ禁獄ニ処スヘシ
- 二 此法第十條ニ定メシ表中有税金券ノ発行

此項第九條ト  
矛盾スルニ似  
トト虫モ今姑  
ク原文ノ終ニ  
誤ス

高<sup>ク</sup>減少セシキハ其隱蔽セシ税高十倍ノ  
罰金ヲ課スヘシ但シ少クモ五百<sup>ト</sup>マルク<sup>レ</sup>我

百二十<sup>ト</sup>下<sup>ル</sup>ヘカラス

三 銀行ニ分テ金券ヲ其発行許可高ヨリ多ク

發行セシキハ即チ之カ超過高十倍ノ罰金

ヲ課スヘシ但シ少クモ五千<sup>ト</sup>マルク<sup>レ</sup>下<sup>ル</sup>

ヘカラス

右第三款ノ罰則ハ無利子無記名証券發行ノ推ラ  
有スル會社ノ支配人其証券發行許可高ヨリ多ク  
發行セシキモ亦然リ

第五章 補則

第六十條

此法第六條第四十二條第四十三條及七第四十三條<sup>送</sup>頭スル第五十六條第五十八條ノ罰則ハ千八百七十六年一月一日ヨリ施行スヘキモノナリ

第六十一條

帝國宰相ハ帝國政府ニ於テ普魯西銀行讓受ケノ為メ左ノ件項ニ準拠シテ普魯西政府ト其條約ヲナスノ權アリ

一 普魯西政府ハ普魯西銀行ヘ拂入レタル株金百九十万六千八百<sup>九我百四十</sup>タ<sup>三我百四十</sup>レ<sup>九我百四十</sup>ル<sup>三我百四十</sup>ト銀行準備金ノ半額即チ該政府ノ所有ニ屬セシ分ヲ引去リ而シテ該銀行ト其權利義務トヲ<sup>決</sup>款第二ヨリ第六マテノ定規ニ循ヒ之ヲ帝國政府ニ讓渡シ帝國政府ハ此

法ニ循テ設置セシ所ノ國立銀行ニ付与スヘキ事

二 普魯西政府ニ於テハ銀行ヲ讓渡ス為メ其價金トシテ千五百万<sup>九我三百七</sup>マルク<sup>十五我三百七</sup>ク<sup>十五我三百七</sup>ク<sup>十五我三百七</sup>ク<sup>十五我三百七</sup>ク國立銀行ヨリ領収スヘキ事

三 普魯西銀行ノ株主ハ其株券ニ屬スル權利ヲ一旦國立銀行ヘ還付シ之ニ代フルニ其同額ナル國立銀行株券ヲ請求シ得ヘキ事

四 千八百四十六年十月五日ニ制定セシ普魯西銀行法第十六條第十九條<sup>ハ</sup>規則ニ循テ其株主ヨリ拂入レタル株金及ヒ準備金配賦高ノ拂戻シヲ請求スル<sup>ハ</sup>國立銀行ニ

於テ之ヲ還付スヘキ事

五 普魯西銀行ハ千八百五十六年一月二十八日及ヒ三十一日ノ条約ヲ以テ負擔セシ千六百五十九万八千<sup>凡我千二百四</sup>百<sup>十四万八千五</sup>百ノ國債ノ年賦ニシテ千八百七十六年ヨリ毎歳六千二万九千九百十<sup>凡我九千四</sup>六千四百<sup>十六万</sup>三十<sup>四</sup>宛之ヲ二期ニ償却シ即チ千九百二十五年ニ至リ全ク還了スヘキノ義務ヲ尔後國立銀行ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノトス然リト雖<sup>モ</sup>氏國立銀行營業ノ期限ヲ終リ更ニ延期セラレサルキ之ニ代リテ其義務ヲ負擔スヘキ他ノ銀行有ラサル以内ハ帝國政府ヨリ之ヲ斡旋シ決テ年賦期

限ヲ淹滞スルナク普魯西政府金庫ヨリ償完セシムヘキ事

六 普魯西銀行ノ所有地ニ就テ普魯西政府ト國立銀行トノ間ニ関スル処分ハ后日ニ及<sup>テ</sup>之ヲ決定スヘキ事

第六十二条

帝國宰相ハ左ノ件項ヲ処分スルノ權アリ

一 此法第六十二条ノ第三款ニ循ヒ普魯西銀行株券ノ交換殘ヲ國立銀行株券ト交換ヲ請求スル者ニ對シ即チ該銀行株券ヲ附与スル事

二 此法第二十三条ニ循ヒ國立銀行ニ於テ要スル所ノ株金高相当ノ金券ヲ発行シテ其

株金十分ニ集マラサルキハ乃チ金庫ノ

シウワイスンクニ第十三條ヲ賣却レ其金額ヲ

以テ之ニ補充スヘキ事但レ此「アンウワイス

ンク」ハ有利子ニシテ遅クモ千八百七十六

年五月二日迄ニ之ヲ交換スヘキモトス

第六十三條

「アンウワイスンク」ハ普魯西國恐ラク帝國債局ニ於

テ之ヲ製シ其利子ノ制限ハ帝國宰相之ヲ定ムル

モノトス而シテ此「アンウワイスンク」ヲ賣却レテ其

得ル處ノ金額千八百七十六年五月二日迄ハ元金

ニ備置ク「ナク宰相」指令ニ循テ時々拂出ス「

ヲ得但レ是ハ發行セシ「アンウワイスンク」ノ「デックン

」第十三條ニノミニ使用スベシ

第六十四條

「アンウワイスンク」ノ利子及ヒ交換ノ為メ要スル所

ノ金額ハ帝國々債局ニ於テ歳入ノ内最モ交換期

限ニ便ナル収入ヲ以テ之ニ備フヘシ

第六十五條

「アンウワイスンク」ノ發行ハ帝國金庫ニ於テスヘシ

而シテ此利子ハ「アンウワイスンク」ノ交換期限ヨリ

四年ヲ以テ期滿得免トシ其元金ハ三十年ヲ以テ

期滿得免トス

第六十六條

商法ニ制定セシ所ノ商業簡明簿ニ就是ハ商法

備ヘアル簿冊ニシテ業及ヒ變改ノ片是ニ其要件ヲ記スモノナリ

登録スル規則ハ帝國銀行ニ敢テ関スル「ナシ

千八百七十五年三月十四日伯靈府ニ於テ親裁  
 日耳曼國皇帝「ウヰルヘルム」  
 日耳曼國公「スマルク」  
 連署

無抵当金券發行許可高通覽表

番号	銀行名稱	金券高
一	國立銀行	二五〇、〇〇〇、〇〇〇
二	波美拉尼州貴族私立銀行	一、二二二、〇〇〇
三	伯老府立銀行	一、二八三、〇〇〇
四	伯靈府合本銀行	九六三、〇〇〇
五	可倫府銀行	一、二五一、〇〇〇
六	隣得堡府私立銀行	一、一七三、〇〇〇
七	但澤城州私立證券銀行	一、二七二、〇〇〇
八	渡蘇大候州縣立證券銀行	一、二〇六、〇〇〇
九	普魯士國「フリースラント」府區立銀行	一、三〇七、〇〇〇
十	漢那耳州銀行	六〇〇、〇〇〇
十一	換塞州特准州立銀行	一五九、〇〇〇

歳首

十二	佛郎渡府銀行	一〇、〇〇〇、〇〇〇
十三	巴華厘州銀行	三二、〇〇〇、〇〇〇
十四	德停府撒遜銀行	一六、七七一、〇〇〇
十五	來責府銀行	五、三四八、〇〇〇
十六	來責府合本金庫	一、四四〇、〇〇〇
十七	セムニツ府立銀行	四四一、〇〇〇
十八	瓦敦堡州証券銀行	一〇、〇〇〇、〇〇〇
十九	巴了州銀行	一〇、〇〇〇、〇〇〇
二十	南日耳曼國銀行	一〇、〇〇〇、〇〇〇
廿一	ローストック府銀行	一、一五五、〇〇〇
廿二	威密州銀行	一、九七一、〇〇〇
廿三	病了堡州立銀行	一、八八一、〇〇〇
廿四	保林師州銀行	二、八二九、〇〇〇

廿五	梅凝認州中日耳曼保任銀行	三、一八七、〇〇〇
廿六	額達州私立銀行	一、三四四、〇〇〇
廿七	安合及德搔州立銀行	九三五、〇〇〇
廿八	羅來尼州銀行	一、六五八、〇〇〇
廿九	ゲルフェル府銀行	一、六五一、〇〇〇
三十	低撒遜州銀行	五九四、〇〇〇
卅一	利比府私立銀行	五〇〇、〇〇〇
卅二	利比府貿易銀行	九五九、〇〇〇
卅三	不來梅州銀行	四、九〇〇、〇〇〇
通計		三八五、〇〇〇、〇〇〇

國立銀行規程

千八百七十五年五月廿一日

爰ニ上帝ノ恩惠ヲ受ケタル日耳曼皇帝兼普魯西王  
朕<sup>兼</sup> 萬<sup>年</sup> 千八百七十五年三月十四日、銀行法第十四  
条ニ循ヒ今回聯邦議會ト許決ノ上國立銀行規程ヲ  
裁定スル<sup>ル</sup> 在<sup>ル</sup> 如シ

國立銀行規程

第一条

千八百七十六年一月一日ヨリ國立銀行ヲ開業ス  
普魯西銀行ハ千八百七十五年十二月三十一日ヲ  
以テ閉止セリ因テ其權利義務ハ同年五月十七日  
十八日ノ兩日ニ帝國ト普魯西トノ間ニ結ビシ條  
約ニ循ヒ千八百七十六年一月一日ヨリ國立銀行  
ニ讓与スヘシ



第二條

國立銀行ハ帝國宰相ノ定メシ期限中ニ普魯西銀行ノ株券ヲ以テ國立銀行株券ト交換セシ株金及  
ニ新ニ株券ヲ請求セシ株金ヲ合セ總高一億二千  
万「九我三」ノ株金ヲ以テ成立スルモノナリ  
國法ヲ以テ株金ヲ増加スル前ニ必ス先ツ中心委員ノ意見ヲ聞キ而シテ後總議會ニ於テ株金ヲ增加セサル可ラサル事及ヒ其高ノ制限并ニ是カ為  
メ利益金銀行法ノ第四條ニ詳ナリ配賦上ニ於テ改革スヘキ要件ヲ議定セサルヘカラス

第三條

國立銀行ノ一株ヲ分割シ及ヒ銀行法ノ第四十一條ニ定メシ場合ノ外ハ株金返還ヲ請求スルヲ得

ス而シテ株主ハ其姓名籍族及ヒ居住地ヲ國立銀行株券ニ登記シ銀行ヨリ一株毎ニ附録ノ様式ニ  
循テ製造シタル株券ヲ与ヘ又五年分ノ益金配賦切手ト五年ノ後更ニ益金配賦切手ヲ与フヘキ「タ」  
ロン銀行法ノ第四條ニ詳ナリヲ付与スヘシ此益金配賦切手及ヒ「タ」ロン銀行法ノ第四條ニ詳ナリハ凡テ無記名ノモノトス

第四條

國立銀行ノ株ヲ他人ニ讓渡スルハ該株券ヲ銀行ニ出シテ其旨ヲ告示シ銀行ニ於テハ此ヲ以テ株帳及ヒ株券ニ其事ヲ記載スヘシ  
銀行株券ニ記載セサル株主ハ銀行ニ於テ之ヲ株主ト看做ス可カラズ  
銀行ハ株主ノ身元ヲ探偵スルノ權アリト雖モ此

ニ就テ責任ノ義務ヲ有セス

第五條

國立銀行ノ株ヲ他人ニ讓渡セシトハ乃チ其株券ニ裏脊ヲ為スヲ以テ証憑トス  
裏脊ノ方法ハ為替法ノ第十一條ヨリ第十三條ニ至ル迄ノ規則ヲ準用スヘシ

第六條

株券ヲ以テ抵当ト為スキハ該株券及ヒ該株主ノ覺昏ヲ國立銀行ニ出シテ其旨ヲ告示シ銀行ニ於テハ此告示ヲ憑拠トシテ即チ株帳及ヒ其株券ニ記載スヘシ  
銀行株帳ニ記載セサル抵当貸主ハ銀行ニ於テ之ヲ貸主ト看做ス可カラス

銀行ハ抵当覺昏ノ正否及ヒ其法律上ニ適當スルヤヲ探偵スルノ權アリト雖モ此ニ就テ責任ノ義務ヲ有セス

株主<sup>借主</sup>ハ抵当貸主ノ認許ヲ得ルニアラサレハ次期ノ益金配賦新切手及ヒ銀行法第四十一條ノ場合ニ於テ配賦金ヲ受ケルヲ得ス然リト雖モ銀行法及ヒ銀行規程ニ循テ与ヘシ權利ニ至テハ毫モ變換スレトナシ  
抵当株券受戻セシキハ該株主ヨリ該株券及ヒ其貸主ノ認許ヲ徵セシ証票ヲ以テ之ヲ銀行ニ告示スヘシ

第七條

株券讓及ヒ或ハ株券抵当ノ為メニスル裏脊ノ手

数料ハ国立銀行主事及ニ中心委員協議ノ上之ヲ  
決定スヘシ

第八條

株券之失ノ報告及ヒモルチヒカチヨシ是ハ株券  
キ法律ヲ以テ其株券賣買停止ハ千八百七十  
請願ヲ為シ得ヘキ事ヲ云フ年五月十五日ノ法此法中ニ記シアル帝國債局  
ラ凡テ国立銀行主事局ト看做スヘシニ準拠シテ  
之ヲ執行スヘシ主事局ニ於テハ株帳ニ就テ其者  
尚ホ其株券ヲ所有セシヤヲ徵証シテ後ニ相異ナ  
キノ証各ヲ付与ス若シ其者株帳ニ記セシ現今ノ  
所有主ニアラサルモルチヒカチヨシヲ処分ス  
ル前ニ必ス株帳ニ記セシ株主ヨリ此株券ニ對シ  
毫モ異議ヲ生セサルノ証ヲ得テ之ヲ諛局ヘ出シ

而シテ其者若シモルチヒカチヨシノ処分ヲ為セシ  
株券ノ代リヲ受クヘキノ理アルニ於テハ更ニ新  
株券ヲ付与スヘシ

第九條

益金配賦切手及ヒタロン銀行法ノ第四  
條ニ詳ナリ之失セシ  
キハモルチヒカチヨシノ処分ヲ為スヲ得ス故ニ  
之失ノ徵証アルモ銀行ニテ益金配賦新切手及ヒ  
タロン或ハ其金額ヲ与フヘキ義務ナシトス然リ  
ト虽モ是ヲ其期滿得免期限前ニ銀行主事局ニ訴  
ヘ置キ而シテ期滿ニ至リ若シ其益金配賦切手ノ  
交換ヲ請求スル者ナキモ其金額ヲ与フルヲ得  
得ヘシタロン之失ノ一ヲ銀行主事局ニ訴ヘアルハ株券

ヲ其<sup>レ</sup>タ<sup>レ</sup>ロン<sup>ニ</sup>代<sup>ヘ</sup>是<sup>ヲ</sup>該<sup>局</sup>ニ出<sup>レ</sup>テ益<sup>金</sup>配<sup>賦</sup>新<sup>切</sup>手<sup>ヲ</sup>請<sup>求</sup>ス<sup>ル</sup>ノ証<sup>ト</sup>ナス<sup>ヲ</sup>得<sup>ヘ</sup>シ

第十條

國立銀行ニ於<sup>テ</sup>他人<sup>ノ</sup>依<sup>頼</sup>ヲ受<sup>ケ</sup>諸<sup>証</sup>券<sup>ヲ</sup>購<sup>求</sup>ス<sup>ル</sup>ニハ必<sup>ス</sup>先<sup>ツ</sup>必<sup>需</sup>ノ償<sup>金</sup>ヲ領<sup>収</sup>シ<sup>或</sup>ハ<sup>レ</sup>ロ<sup>シ</sup>ハ<sup>ル</sup>ト<sup>レ</sup>銀行<sup>法</sup>ノ第<sup>八</sup>法<sup>ニ</sup>循<sup>ヒ</sup>其<sup>抵</sup>當<sup>ヲ</sup>受<sup>ケ</sup>レ<sup>シ</sup>上<sup>ニ</sup>限<sup>ル</sup>ヘ<sup>シ</sup>又<sup>諸</sup>証<sup>券</sup>賣<sup>却</sup>ノ依<sup>頼</sup>ヲ受<sup>ケ</sup>ル<sup>キ</sup>モ必<sup>ス</sup>其<sup>証</sup>券<sup>ヲ</sup>領<sup>収</sup>セ<sup>レ</sup>上<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>ス<sup>ヘ</sup>シ<sup>但</sup>シ<sup>官</sup>署<sup>ノ</sup>依<sup>頼</sup>ヲ受<sup>ケ</sup>諸<sup>証</sup>券<sup>ヲ</sup>賣<sup>買</sup>ス<sup>ル</sup>ニハ其<sup>價</sup>金<sup>或</sup>ハ<sup>レ</sup>証<sup>券</sup>ヲ銀行<sup>ノ</sup>為<sup>メ</sup>ニ備<sup>ヘ</sup>アル<sup>確</sup>証<sup>ノ</sup>ミ<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>定<sup>定</sup>ス<sup>リ</sup>トス

第十一條

國立銀行ハ帝國政府ノ預<sup>リ</sup>金<sup>ニ</sup>銀行<sup>法</sup>ノ第<sup>二十</sup>條<sup>ニ</sup>詳<sup>ナ</sup>リ

無<sup>入</sup>費<sup>ニ</sup>テ該<sup>政府</sup>ノ為<sup>メ</sup>ニ出<sup>納</sup>シ<sup>テ</sup>其<sup>會</sup>計<sup>ヲ</sup>為<sup>ス</sup>ヘ<sup>シ</sup>

第十二條

普魯西銀行ヨリ讓<sup>受</sup>ケ<sup>レ</sup>土地<sup>ノ</sup>價<sup>直</sup>ハ千<sup>二</sup>百<sup>万</sup>マ<sup>レ</sup>ク<sup>レ</sup>九<sup>我</sup>三<sup>五</sup>百<sup>万</sup>円<sup>ト</sup>シ<sup>并</sup>ニ前<sup>年</sup>四<sup>月</sup>一<sup>日</sup>ヨ<sup>リ</sup>十二<sup>月</sup>世<sup>一</sup>日迄<sup>右</sup>土地<sup>ニ</sup>関<sup>ス</sup>ル<sup>經</sup>費<sup>ヲ</sup>併<sup>セ</sup>テ千<sup>八</sup>百<sup>七</sup>十六<sup>年</sup>一<sup>月</sup>一<sup>日</sup>ノ結<sup>算</sup>表<sup>中</sup>ニ掲<sup>載</sup>ス<sup>ヘ</sup>シ

第十三條

結<sup>算</sup>年<sup>表</sup>ハ左<sup>ノ</sup>規<sup>則</sup>ニ準<sup>拠</sup>シ<sup>テ</sup>編<sup>製</sup>ス<sup>ヘ</sup>シ  
一 時<sup>價</sup>アル<sup>証</sup>券<sup>ハ</sup>結<sup>算</sup>表<sup>ヲ</sup>製<sup>造</sup>ス<sup>ル</sup>時<sup>ノ</sup>價<sup>直</sup>ヲ以<sup>テ</sup>記<sup>入</sup>ス<sup>ヘ</sup>キ<sup>事</sup>  
二 銀行<sup>創</sup>設<sup>及</sup>ヒ<sup>事</sup>務<sup>取</sup>扱<sup>等</sup>一<sup>切</sup>ノ<sup>經</sup>費<sup>ハ</sup>渾<sup>テ</sup>該<sup>年</sup>度<sup>ノ</sup>歲<sup>出</sup>ニ<sup>組</sup>入<sup>ル</sup>ヘ<sup>キ</sup>モ<sup>ノ</sup>ト<sup>雖</sup>モ

此内金券製造ノ費額ハ之ヲ分割シテ数年  
ノ歳出内ニ組入ルヘキ事

三 株金及ニ準備金ハ借入ノ部分ニ記入スヘ  
キ事

四 所有ト借入トノ差引計算ヲ為シテ此ヨリ  
生スル損益ハ結算表末ニ於テ別ニ記入ス  
ヘキ事

### 第十四条

結算年表ハ銀行委員銀行ノ帳簿ニ依リ之ヲ検査  
シテ其意見ヲ中心委員ニ報告スヘシ  
中心委員ハ是ニ依リ集會ヲ為シ株主ニ配賦スヘ  
キ益金ニ就テ意見ヲ陳ヘ以テ其額ヲ定メ而シテ  
此意見各ニハ出席ノ委員渾テ連署シ之ヲ国立銀

行主事局ニ出スヘシ

### 第十五条

益金ハ遅クモ次年四月一日ヨリ国立銀行大金庫  
及ニ大小支店ニ於テ益金配賦切手トシテ交換  
付与スヘシ

此益金株金高百ニ付キ二分二厘五毛迄ハ中心委  
員ノ認許ヲ以テ七月一日一月二日ノ兩回ニ前渡  
シテ為シ得ヘシ

### 第十六条

集會 銀行法第三十八條即チ株主ノ代理トナル  
ナリ

渾テ男子ニシテ所有物処分ノ権ヲ有シ而シテ遅  
クモ集會ノ前日ニ国立銀行記録所ヨリ株帳ニ

照シテ各セル株券ノ所有主タルハ幾個ノ株券ヲ  
有スルモトノ証票ヲ得シ者ニアラサレハ此席ニ列  
スレヲ得ス

遅クモ総集會十四日前ニ其株主タルヲ株帳ニ掲  
載セシ者ニアラサレハ此席ニ列スルヲ得ス  
法律上ニ於テ唯一箇人ト看做スモノ即チ官署會  
社オ或ハ所有物処分ノ權ヲ有セサル者ハ其代理  
人ヲ出シ又人ノ婦タル者ハ其夫ヲ以テ代リトス  
ヘシ

渾テ代理人タル者ハ株帳ニ掲載セシ株主ヲシテ  
裁判所或ハ録事ノ証アル本人ノ委任狀ヲ有スル  
者ニ限レリ但シ一人ニテ数名ノ代理ヲ為スヲ許  
サス

### 第十七条

渾テ代理人トシテ総集會ノ席ニ列セシ者ハ代理  
ヲ委任セシ株主ノ所有セル株數ニ應シテ投票ヲ  
為スノ權ヲ有スト雖モ其數一百ニ上ルヲ許サ  
ス  
渾テ議事ハ投票ノ多數ヲ以テ決スヘシ若シ投票  
同數ニシテ決シ難キハ其所有スル株券ノ數最  
モ多キ者ニテ之ヲ裁定スヘシ

### 第十八条

総集會ハ毎年一月伯靈ニ於テ開クヲ例トス臨時  
総集會ハ時月ニ拘ハラスシテ開クヲ得ヘシ而  
シテ議員ヲ召集スルニハ宰相ヨリ遅クモ総集會  
十四日前ニ定式ノ新聞紙ヲ見ヨシテ附刊シテ遍

ツ告示スレモ、ナリ

第十九条

総集會ノキハ宰相或ハ其代理人ヲ以テ議長トナ  
ス若シ事故有テ出席スルヲ得サルキハ国立銀行  
主事局長其議長ヲ代理スヘシ  
主事局ノ吏員ハ此席ニ列シ議事ニ干預スルヲ得  
ルト雖モ投票ヲナスノ權ナシ

第二十条

総集會ノキハ国立銀行主事局一名ノ吏員ヲシテ  
其議事及ヒ決議ノ演說各ヲ作ラシメ而シテ議長  
中心委員銀行株主二名及ヒ演說書ヲ作リシ者オ  
共ニ之ヲ連署スヘシ

第二十一条

総集會ノキハ銀行事務報告年表結算表及ヒ利益  
計算表銀行法第三十二條印見ユラ検査シ又中心委員選舉  
銀行法第三十條退職銀行法第三十條事ヲ議シ  
其他株金増加銀行法第三十條銀行規程改正銀行法第三十條事豫メ  
其議題ヲ示シテ之ヲ議定スヘシ  
臨時総集會ノキハ故ラニ告示セシ議題外ノ事ハ  
決テ議スルヲ得ス

第二十二条

中心委員及ヒ其代理人銀行法第三十條撰舉  
法ハ封緘ノ投票ヲ以テ一地方毎ニ之ヲ執行スヘ  
シ  
投票ノ數其半ヲ過クルニアラサレハ之ヲ撰定セ  
ルモノト看做スヘカラス此投票法已華厘亞國稅  
法中卷八入稅法ノ第

二十一条  
ニ詳ナリ

第二回選舉ノキニ於テ猶ホ投票ノ數其半ニ過キ  
サレハ其内投票ノ多數ナル者二名ヲ選テ更ニ投  
票ヲナサシメ而シテ又投票同數ナルキハ抽籤ヲ  
以テ之ヲ定ムヘシ

應撰人ハ必ス男子ニ限レリ

一商籍ニシテ社員多キキハ其中ハ一員中心委員  
或ハ代理人タルヲ得ス

第二十三条

中心委員三分ノ一ヲ交代銀行法第三十二条ノセ  
レハルニ初年ハ必ス抽籤ヲ以テシテ爾後ハ其在勤  
年數ノ長短ヲ以テスヘシ

第二十四条

中心委員中特別委員及其代理人銀行法第三十  
四條ニ詳ナリ  
ノ選舉ニ株券所有ノ多寡ニ拘ハラズ中心委員一  
名主ニ一投票ヲナシ其他ハ渾テ第二十二條ノ如  
シ

第二十五条

中心委員ノ議事及ヒ決議ノ演説書ニハ議長及ヒ  
委員二名并ニ之ヲ作リシ者必ス共ニ連署スヘシ

第二十六条

国立銀行主事局ノ吏員ハ中心委員ノ會議ニ参与  
スト雖モ投票ヲナスハ權ナシ

第二十七条

區委員銀行法第三十  
六條ニ詳ナリハ少クモ四名多クモ十名  
ヲ限リ毎年半数ツ、交代セシム其法初年ハ必ス



抽籤ヲ以テシテ爾後ハ在勤年數ノ長短ヲ以テスヘシ但シ退職セシ者ト虽モ再ヒ選舉セラル、ヲ得

第二十八條

第二十二條ノ第四項第五項ニ循ヒ中心委員ノ撰ニ中ラサル者ハ區委員及ヒ支店委員ノ撰ニモ亦應スレトヲ得ス

第二十九條

中心委員ニテ稟申スヘキ區委員及ヒ支店委員選舉、為、銀行法ノ第三十六條ニ詳ナリ銀行監督ヨリ撰舉意見ノ人名錄及ヒ被選ノ推ヲ有スル株主ノ人名錄ヲ中心委員ニ送致スヘシ  
區委員ニテ執行スヘキ支店委員ヲ選舉スルキハ第二十四條ノ規則ニ循フヘシ

第三十條

渾テ株主ノ為メニスル報告ハ宰相ヨリ之ヲ發シテ日耳曼帝國布告新聞紙ニ付刊シ銀行各大支店所在地方ニ於テハ定式ノ新聞紙ヲ以テス  
國立銀行主事局ヨリ株主一般ノ為メニ發スル報告ハ是式ノ新聞紙ヲ以ラス但シ一二ノ株主ニ関スレトハ此限ニアラス

第三十一條

國立銀行廢止銀行法ノ第四十條ニ詳ナリノキハ宰相之カ裁トナリ主事局ニ於テ解社結算銀行法ノ第四十條ニ詳ナリノ事務ニ着手シ銀行ノ尽ス可キ業務ト其取ル可キ貸付トヲ処分ヲ為シ渾テ所有ノ財産ヲ現金ニ交換シテ其殘務ヲ整頓スヘシ

未決ノ事務ヲ処分スルニ就テハ新ニ事務ヲ起ス  
トヲ得ヘシ

国立銀行主事局ハ銀行法ノ第三十八條ニ循ヒ解  
社結算ノ事務完結ニ至ル迄ハ他ニ對シテ該銀行  
ノ代理ヲナスヘシ

第三十二條

国立銀行主事局ハ帝國政府ハ株主并ニ株主相對  
ノ間ニ於ケル結算事務ノ取扱ヲナスヘシ

第三十三條

国立銀行株主第一ノ総集會ハ千八百七十七年三  
月ニ至リ開場スヘキヲ以テ此間總集會ニテ執行  
スヘキ事務ハ左ノ人々集會ニテ取扱フモノトス  
一 旧普魯西銀行株主ニシテ帝國宰相ノ定メ

レ期限内ニ其旧株券ヲ以テ国立銀行ノ株  
券ヲ交換セントヲ請求セシ者及ヒ其相続  
人

二 国立銀行ノ株券ヲ請求シテ之ヲ所有セシ  
者及ヒ其相続人

此集會千八百七十六年一月一日前ニハ右第一款  
第二款ニ記セシ者ヨリ中心委員選舉ノ為メ召集  
スレトヲ得此他ハ第一ノ總集會ヲ開ク迄時月ニ  
拘ハラスシテ之ヲ開クトヲ得ヘシ

千八百七十六年一月一日前ニハ中心委員中ヨリ  
委員及ヒ其代理人選舉ノ為メ召集スルトヲ得ヘ  
シ

千八百七十六年一月一日前ニハ右第一款第二款

ニ記セシ者ヨリ區委員及ヒ文店委員選舉ノ為メ  
召集スルコトヲ得ヘシ

第三十四条

第三十三條國立銀行株主代理人ノ集会ニハ銀行  
法及ヒ銀行規程中ノ總集會中心委員特別委員區  
委員。文店委員ニ関スル規則ヲ通シ用フヘシ  
千八百七十五年五月二十一日伯靈ニ於テ  
朕親ラ署名シ皇帝ノ璽ヲ捺シ以テ証ス

日耳曼國皇帝威廉 璽  
日耳曼國公「ビスマルク」 連署

國立銀行株券様式

國 立 銀 行

國 立 銀 行 株 券

第 何 號

一 千 八 百 零 九 年 何 月 何 日

主 事 官 章

主 簿 姓 名

主 記 姓 名

伯 務 府

國立銀行讓渡及ヒ抵當質取規則  
第一款 銀行株、讓渡ハ裏面ヲ以テ証トス是ハ此株券ノ裏面ニ預メ印刷  
シアル文章ノ欠字ヲ補填スヘシ或唯讓主ノ姓名ヲ署スルモ亦可ナリ為換  
法ノ第十一條ヨリ第十三條迄ヲ参考スヘシ  
第二款 銀行株ヲ他人ニ讓渡スルハ其株券及ヒ讓渡ノ為メ必需ナル覚書  
ヲ銀行ニ出スヘシ  
銀行ニ於テハ株主トシテ帳ニ記載ナキ者ハ之ヲ株主ト看做サス  
銀行ニ於テハ讓受人ノ身元ヲ審問スルノ權利アリ但シ是ニ就テ責任ノ義  
務ヲ有セス  
讓渡ノ件ハ其株券ニ憑據シテ帳ニ登録シ然レ後讓券ヲ讓主ヘ返付シ覺  
書ハ銀行ノ記録所ニ藏置スヘシ  
第三款 株券ヲ抵當トナスルハ其株券及ヒ讓主ノ覺書ヲ銀行ニ出スヘシ  
銀行ニ於テハ抵當貸主トシテ帳ニ記載ナキ者ハ之ヲ貸主ト看做サス  
銀行ニ於テハ覺書ノ真確ニシテ法律ニ適スルヲ否ヲ照査スルノ權アリ但  
シ是ニ就テ責任ノ義務ヲ有セス  
株主階主ハ抵當貸主ノ承諾ヲ得サレハ更ニ次期ノ配賦切手及ヒ銀行法第  
四十一條ノ場合ニ於テ配賦金ヲ領受スルコトヲ得ヘカラス但シ其他銀行法  
及ヒ銀行規程上ニ於テ株主ニ与ヘシ權利ヲ剝奪スルコトナシ  
貸主抵當上ノ權利ハ借主ヨリ其抵當株券及ヒ確實ナル貸主ノ認許各ヲ銀  
行ニ出セルコトヨリ消滅スルモノナリ  
此他ノ右第二款ノ規則ヲ通シ用フヘシ



配賦切手様式

配賦金期満得免期限ハ其拂期ヨリ起算シテ四箇年トス而シテ其期満得免セシ金額ハ銀行ノ所得ト為スヘシ(銀行法ノ第二十四條ヲ参考スヘシ)

年何百八千一

年何百八千一

此切手所有主ハ之ヲ國立銀行大金庫或ハ該大支店或ハ支店ハ差出シ國立銀行第何號株券何年配賦金ノ殘額ヲ領收スヘシ此金額及ハ拂期日ハ帝國宰相ヨリ公布スルモノナリ(銀行法第二十四條第三十二條ノ第一款并ニ銀行規程第十五條第二十一條第三十條ヲ参考スヘシ)

伯 霧 府 立 國 銀 行 主 事 局 章  
主 記 姓 名 主 簿 姓 名

タロシ様式

此「タロシ」所有主ハ之ヲ以テ何年ヨリ何年迄何箇年ノ配賦切手ト交換シ更ニ新「タロシ」ヲ領收スヘシ若シ此「タロシ」ハ失セシキ其旨國立銀行主事局ハ上告シアレハ之ニ代エテ株券ヲ以テスル「タロシ」得ヘシ(銀行規程第九條ヲ参考スヘシ)

伯 靈 府 立 國 銀 行 主 事 局 章  
主 記 姓 名 主 簿 姓 名

